

### ポイント9 母は“はは”“ぼ”“かあさん”

漢字に着せられた“濡れぎぬ”

母という字が“はは”“ぼ”“かあさん”というように、いく通りにも読めては煩雑だから“母さ

ん”という使い方が禁止されました。しかし、“はは”“ぼ”“かあさん”はすべて言葉です。言葉がまずあって、次にそれを表す文字があるのです。だから、煩雑というならそれは言葉にあるのであって、漢字には全く関係のないことです。

例えば、“はは”という言葉しかなかったなら、母という漢字は“はは”という読み方しかないことになります。だから、整理するなら言葉そのものを整理しなければ、本当の整理にならないのです。

また、「一つの漢字がいく通りにも読める」という言い方をするから「煩雑さの原因が漢字にある」ように感じられるのです。「いくつもの言葉を一つの漢字で兼用させている」のが事実で、そういう言い方をすれば、「漢字は煩雑な言葉を整理し合理化している」ことになるのです。

つまり、「漢字はとんでもない濡れぎぬを着ている」のです。“はは”“ぼ”“かあさん”は皆同じ概念の言葉です。同じ概念だから、同じ漢字で書き表すことこそ合理的であり、これを別の字で書くことこそ煩雑であり、不合理なのです。

コラム

**部首** 禾

稲の穂が実って垂れ下がっている象形字。

【和】 豊年で“稲が十分 にはいる”こと、つまり「平和」。衣食足りて礼節を知る。食足りて心が“なごやかになる”とはよく庶民の情を表した字。

【税】 “分ける”“抜く”の兌と禾との会意字。収穫物から租税として“別に分けておく禾(イネ)”のこと。今ではお金で納めるから税金。